

子どもを危険から守るには

2008.06.06

函館市内と近郊では小学校の運動会も終わり、子どもたちもちょっと落ち着いた感じになりました。水ぼうそうと溶連菌感染症は相変わらず猛威を振るっています。札幌を中心にした麻疹の流行も収まる気配がありません。中1と高3のMRワクチンが済んでいないお子さんは早めに対応してくださいね。

最近、またネットでいじめられて自殺という記事が増えました。ちょっと手を差し伸べてあげると助かる命が散っていくのを見るのは悲しいことです。子どもたちを守る一番の手はずは、子どもが安心して生活でき、自分の居場所がはっきりした家庭を築くことにあります。十代の妊娠に深い造詣があり講演も多くしている日本家族計画協会の北村先生は、「10代で望まない妊娠を経験した女子と、そうでない女子にどんな違いがあるのか？唯一の違いは子どもが小さいときから親とどんな些細なことでも話をする機会が多かったかどうかによる」と、講演の中でお話しされています。ネットの情報を安易に信用し、悪い方向に流れてしまうのも家庭に居場所がない、どうせ親に話しても関心を持ってくれないと子ども達を感じているのかもしれない。クリニックで行っている心理相談にもいろんな症状を表すお子さんがいらっしゃいますが、家庭での居場所というか、外の世界でのストレスを上手に発散するという家庭の持っている役割がうまく機能していないのではと感じる親子関係の方が散見されるのも事実です。中には、子どもの問題は自分たちとまったく関係のない問題だと考える親御さんもいて、こういう家庭の中で育つ君はよくその程度の発散でとまっているのかと、こちらが感心するほどです。

子どもの人格は、生まれながらに確立されたものではなく、お父さんお母さんの愛情に満ちた家庭の中で育つことにより、形成されていくものです。子どもたちに起こっている問題は、振り返れば自分たちがどのように子どもたちに接しているかという問題でもあります。どうか子どもに起きた問題を自分自身の問題として、一緒に対処してあげてください。それができるのはいつも子どもの傍らにいるあなたなのですから。